Weekly report

株式会社　ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望＝ドル円は上値の重い推移が継続か

［８月１２日からの１週間の展望］

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

週間高低（カッコ内は日）　　８月５日～８月９日

	始　値	高　値	安　値	終　値	前週比
ドル・円	106.59	107.09(6)	105.50(7)	105.91	-0.68
ユーロ・ドル	1.1109	1.1250(6)	1.1105(5)	1.1192	+0.0084

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

国内株・金利／米国株・金利

	終　値	前週末比		終　値	前週末比
日経平均株価	20,684.82	-402.34	日本10年債利回り	-0.214	-0.051
ダウ平均株価	26,378.19	-106.82	米10年債利回り	1.717	-0.128

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

＜来週の主要経済統計等＞

１２日　米７月財政収支

１３日　独７月消費者物価指数
　　英７月雇用統計
　　独８月ＺＥＷ景況感指数
　　米７月消費者物価指数

１４日　日本６月機械受注高
　　中国７月鉱工業生産指数、中国７月小売売上高
　　独第２四半期国内総生産（ＧＤＰ）速報値
　　英７月消費者物価指数、英７月生産者物価指数、英７月小売物価指数
　　ユーロ圏６月鉱工業生産指数
　　ユーロ圏第２四半期域内総生産（ＧＤＰ）改定値
　　米７月輸入価格指数

１５日　豪７月雇用統計
　　日本６月鉱工業生産指数
　　スイス７月生産者・輸入価格
　　英７月小売売上高
　　米８月ＮＹ連銀製造業景気指数、米第２四半期非農業部門労働生産性指数
　　米７月小売売上高、米８月フィラデルフィア連銀景況指数
　　米新規失業保険申請件数
　　米７月鉱工業生産・設備稼働率
　　米６月対米証券投資

１６日　ユーロ圏６月貿易収支
　　米７月住宅着工・許可件数
　　米８月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

【前回のレビュー】世界的にリスク回避の動きから株安が進み、円は買われやすくなっており、ドル円は上値の重い展開が続いて、一段安の展開となりそうとした。ユーロ圏の経済指標も弱いものが多く、欧州中央銀行（ＥＣＢ）の今後の緩和姿勢もあり、ユーロドルは軟調な推移が見込まれるとした。

【米中の対立激化で金融市場は大混乱】

１日にトランプ米大統領が９月１日より対中関税第４弾を課すと表明したことから、金融市場の混乱が続いている。貿易問題を巡って、米中の対立が激化するとの見方が広がり、各国の株価が乱高下して、金利も急低下するなど荒れた動きとなっている。

５日に米財務省は中国を為替操作国に認定した。５日にドル人民元は１ドル＝７．０元を超えるドル高元安に傾いており、中国政府が米国への対抗措置として元安を容認しているとの見方が広がった。米中貿易摩擦が激化するとの警戒感から、５日のＮＹダウは７６７ドル安と急落した。６日に中国も米国産農産物の一時輸入停止を表明するなど報復の意向を示すなど、対立の深刻化が警戒されている。

６日には中国人民銀行（中央銀行）が、人民元の基準値を市場の想定よりも元高に設定したことで、元安の動きが一服した。この日の東京時間のＮＹダウ先物は５００ドル超の下げからプラス転換した。日経平均は一時６００円超の下げとなったが下げ幅を大きく縮めて、大引けは１３４円安となった。ドル円も１０５．５０台まで下落した後、一時１０７円台回復まで戻すなど荒れた動きを見せた。

米中貿易摩擦の影響で各国でも景気減速への警戒感が広がって、利下げに動く中銀が相次いでいる。７日にＮＺ準備銀行（ＲＢＮＺ）が政策金利を０．５０%引き下げ（市場予想は０．２５%引き下げ）となり、サプライズとなった。他の国でもこの日はインドやタイが利下げに動いた。

ＣＭＥ　ＦＥＤウォッチでは９月の米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）での０．２５%の利下げ確率は７４%前後に達している。９月は欧州中央銀行（ＥＣＢ）も利下げに動くとみられている。米中が歩み寄らずに対立が深刻化していることで、世界的な景気減速への警戒感や株安を招いており、各国中銀への利下げ圧力が高まりそうだ。

トランプ米大統領の発言や米国の出方に加えて、中国人民銀行の対ドルでの人民元基準値などが市場に影響を与える要因と意識されている。こうした中、ドル円は１０５～１０６円台で上値重く推移している。ユーロ円、ポンド円、豪ドル円などのクロス円も円高は一服したものの、戻りは限定的となっている。リスク回避の円買い圧力が続くとみられ、ドル円は上値の重い動きが継続することとなりそうだ。１０５円の節目を割り込むと、１月３日の安値１０４．８７にトライする可能性が高まる。ドル円の目先の予想レンジは、１０４．５０～１０７．５０円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、１２日に米７月財政収支、１３日に米７月消費者物価指数、１４日に日本６月機械受注高、米７月輸入価格指数、１５日に日本６月鉱工業生産指数、米８月ＮＹ連銀製造業景気指数、米第２四半期非農業部門労働生産性指数、米７月小売売上高、米８月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、米７月鉱工業生産・設備稼働率、米６月対米証券投資、１６日に米７月住宅着工・許可件数、米８月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは１．１３００ドル付近で頭打ちか】

ユーロドルは１日に１．１０００ドルに接近した後は１．１２台半ばまで上昇して、その後は１．１２ドル近辺でもみ合いとなっている。米中貿易摩擦の激化でドルが売られて１．１２ドル台まで上昇したものの、ユーロ圏の景気の不透明感からユーロドルは一段の上値追いには慎重となっている。

米中対立の影響を受けて主要国で金利が急速に低下している。米１０年物国債利回りは、７月３１日には２%超で推移していたものの、一時１．７%を割り込む水準まで低下している。ドイツの１０年物国債利回りも７日に－０．６%台まで低下するなど低下傾向が続いている。

ドル売りの動きが加速するようだと、ユーロドルには上値余地はありそうだ。ただ、ユーロ圏の景気減速懸念やＥＣＢによる利下げなどの金融緩和見通しにより、大きく上昇するのは見込み薄とみられる。このため、ユーロドルは上昇しても１．１３００ドル近辺で頭打ちとなりそうだ。その後は上値を抑えられてレンジ相場が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、１．１０００～１．１３００ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、１３日に独７月消費者物価指数、英７月雇用統計、独８月ＺＥＷ景況感指数、１４日に中国７月鉱工業生産指数、中国７月小売売上高、独第２四半期国内総生産（ＧＤＰ）速報値、英７月消費者物価指数、英７月生産

者物価指数、英７月小売物価指数、ユーロ圏６月鉱工業生産指数、ユーロ圏第２四半期域内総生産（ＧＤＰ）改定値、１５日に豪７月雇用統計、スイス７月生産者・輸入価格、英７月小売売上高、１６日にユーロ圏６月貿易収支などがある。

（ミンカブ　佐藤昌彦）

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

＜免責事項＞
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

＜著作権について＞
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。